

33. 統合新領域学府

(1) 統合新領域学府の教育目的と特徴	33-2
(2) 「教育の水準」の分析	33-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	33-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	33-11
【参考】データ分析集 指標一覧	33-13

(1) 統合新領域学府の教育目的と特徴

1. 本学府の教育目的は以下の通りである。

本学府は、科学的な知の統合と創造を通じて、現代の科学や社会が問いかける複合的かつ根源的な課題の究明に取り組み、その知的成果を社会に還元するとともに、自らそのような知の担い手として活躍する高度な専門人材を組織的に養成することを目的とする。

このような人材養成のためには、

多様な学問分野の知の教授

学生が専門とする分野だけでなく、複合的な課題の解決に取り組むための基礎となる、関連する分野の知の教授

課題解決に取り組む実践的教育

課題の把握とその解決に向けた取組を実践する演習による教育が必要であり、そのような教育を行うことが本学府の特徴である。本学府は、ユーザー感性学専攻、オートモーティブサイエンス専攻、ライブラリーサイエンス専攻の3専攻から成る。各専攻の教育目的は、本学府の教育目的をそれぞれが取り扱う課題に応じて具体化したもので、以下のとおりである。

(ユーザー感性学専攻)

外界の事象（人・もの・こと・場）に対する感受性及び感受性に基づく統合的な心の働きである「感性」の研究教育を通じ、さまざまな知をユーザー（自然科学、社会科学、人文科学や技術の知を役立てる個人、グループ、組織など）の感性と融合させ、ユーザーの視点に立ち人間理解をふまえ個人と社会の満足を創造できる新しい高度専門人材に対し、学位（感性学、芸術工学、工学）を授与する。

(オートモーティブサイエンス専攻)

オートモーティブという視点から自動車と先端技術、自動車と人間や社会、自動車と環境・エネルギーなどの先端的で複合的な課題を、工学から社会科学にまたがる知の統合によって解明し、新しいオートモーティブ社会を創造する高度な人材に学位（工学、学術、オートモーティブサイエンス）を授与する。

(ライブラリーサイエンス専攻)

ICT環境の発展と法令や情報流通の変化、国際化の進展に伴って生じている情報の管理・提供に関する様々な課題を、図書館情報学、アーカイブズ学・記録管理学、情報科学などの知の統合によって解決し、ユーザーの視点に立った情報の管理・提供によりユーザーの知の創造・継承活動を支援する人材、これからの情報の管理・提供のあり方を探求する人材に対し、学位（ライブラリーサイエンス）を授与する。

2. 本学府の組織の特徴は、本学府の教育の特徴である多様な学問分野の知の教授と課題解決に取り組む実践的教育のため、学内の多くの研究院の様々な専門性をもつ教員や実務経験を有する教員を多数配置するとともに、3専攻それぞれが、対象とする課題に応じて、企業、行政機関、地域社会、および学内組織との連携体制を整えている事である。また、入学者の特徴は、多様な入学者選抜方法を実施し、多様な専門性を有する学生から構成されていることである。

以上の教育目的と特徴は、本学の中期目標記載の基本的な目標「豊かな教養と人間性を備え、世界的視野を持って生涯にわたり高い水準で能動的に学び続ける指導的人材（アクティブ・ラーナー、骨太のリーダー）を育成する。」を踏まえている。

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 7333-i1-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 7333-i2-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料
（別添資料 7333-i3-1）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料
（別添資料 7333-i3-2～4）
- ・ 研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（別添資料 7333-i3-5）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学府の教育の特徴である多様な学問分野の知の教授のため、学内の多くの研究院などから様々な専門性をもつ教員を専任教員または兼任教員として本学府に配置している。（別添資料 7333-i3-6） [3.1]
- 専攻が扱う課題に関連する多様な学問分野の科目を配置するとともに、修了後のキャリア像等を念頭に置いた多様な履修モデルを用意し、効果的な履修計画が立てられるようにしている。（別添資料 7333-i3-7～8） [3.1]

九州大学統合新領域学府 教育活動の状況

- ユーザー感性学専攻とライブラリーサイエンス専攻では、社会的課題解決に取り組む実践的教育を重視する学位プログラムの特徴に対応する取り組みとして、社会ニーズにタイムリーに応じるテーマを設定した PTL (Project Team Learning) を複数実施している。(別添資料 7333-i3-9~10) [3.2]
- オートモーティブサイエンス専攻では、1~4か月に及ぶインターンシップを必修科目としており、主に自動車関連企業と連携して、実践的な教育を行なっている。また、材料科学における最先端の研究を教育に取り入れるため、特定教育研究講座という名称の講座を設け、本学カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所の研究者が教育活動に従事できる編成としている。
((再掲) 別添資料 7333-i3-6) [3.2]
- ライブラリーサイエンス専攻 (LSS) では、カリキュラム改訂時に LSS 特別講義 I と II (それぞれ 1 単位) を設置し、ライブラリーサイエンスに関係する最新の社会的な課題や研究トピックを講義、演習をすることができるようにした。ライブラリーサイエンスが対象とする研究領域では様々な新しい課題が取り上げられるため、これらの科目を設置することで、重要と考えられる最新の社会的課題を学生に理解させることや課題解決のために求められる人材の育成を可能としている。2016 年度からは、オープンサイエンスにおけるオープンデータを取り扱っており、特別講義 I ではオープンデータの概要や実践例を学び、II では技術的な側面としてオープンデータの管理に必要なプログラミング言語を学ぶ。
(別添資料 7333-i3-11~12) [3.2]
- ライブラリーサイエンス専攻は社会における情報の管理と提供の場を研究対象としているが、そこでの研究課題は短いスパンで変わるため、現代の社会的ニーズに即した人材育成ができるようにするには、最新の学術動向を常に把握しておくことが必要である。そのため、最新の学術動向に関する様々なイベントを企画し、海外や外部から専門家を招き、講演や議論の機会を設けている。2016 年度はシンポジウム「オープンデータとデジタルヒューマニティーズ」、2017 年度は「Computational Archival Science (CAS)」講演会、2018 年度はシンポジウム「オープンデータと大学」、2019 年度はシンポジウム・ワークショップ「大学における研究データサービス」等を開催した。これらのイベントの開催記録はライブラリーサイエンス専攻の年報に、発表資料のうち許可が得られたものは機関リポジトリに掲載し、後から内容を把握できるようにしている。
(別添資料 7333-i3-13~17) [3.3]
- ライブラリーサイエンス専攻では、本学附属図書館の職員に授業講師として協力を依頼し、情報組織化と情報サービス等に関する実践的な教育を行なっている。

また、図書館等の学内組織の他、麻生レコードマネジメント株式会社、日立ドキュメントソリューションズ、国立公文書館と連携しインターンシップを実施している。[3.5]

<必須記載項目 4 授業形態、学習指導法>

【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料
(別添資料 7333-i4-1~2)
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料
(別添資料 7333-i4-3~4)
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数
(別添資料 7333-i4-5)
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料
(別添資料 7333-i4-6)
- ・ 指標番号 5、9、10 (データ分析集)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- ライブラリーサイエンス専攻が企画するシンポジウムや講演会に学生を参加させることにより、実践の場における最新の課題を把握させることができる。ライブラリーサイエンスは情報の管理と提供という実践の場に隣接しているため、このような形態を通して実践における最新の課題を理解させ、それらの課題と理論とを結びつけられるようにしている。[4.1]
- ユーザー感性学専攻の PTL (Project Team Learning) は、企業や自治体、コミュニティ活動や医療現場など、さまざまな現場とのコラボレーションを通して実践経験と協働体験を積むことができる就学プログラムを提供している。[4.2]
- オートモーティブサイエンス専攻においては、専攻設置当初より 1~4か月の長期にわたる長期インターンシップを必修科目として取り入れている。2016年度から 2019年度までに述べ 73名の学生を自動車関連企業に派遣し、派遣先の企業で最先端研究テーマに取り組んだ。自動車業界における研究ニーズ、実際的な研究開発の進め方の体験などを、学生の研究テーマおよび自身の就職活動などにも活かせる良い経験となっている。(別添資料 7333-i4-7~8) [4.2]
- 学府全体の授業として行なっている「統合新領域最先端セミナー」は地理的に離れた 2キャンパスを TV 講義システムでつなぎ遠隔授業を行うとともに、講義

九州大学統合新領域学府 教育活動の状況

を録画することで履修できなかった学生への対応も行なっている。[4.3]

- 学内共通の M2B(みつば)学習支援システム(e-learning Moodle、e ポートフォリオシステム Mahara、デジタル教材配信システム BookLooper)を活用している。
[4.3]
- ユーザー感性学専攻では、「感性」を基にした芸術創作や価値創造、編集などの領域で第一線の活動を行なってきた教員を配置している。(作曲家1名、デザイン・マーケティング等実務経験者3名、デザイン・メディア等実務経験者3名等) ((再掲) 別添資料 7333-i3-6) [4.4]
- オートモーティブサイエンス専攻では、技術領域横断的に問題解決に当たってきた教員を配置している。(自動車産業関連企業での研究開発の経験者3名)
[4.4]
- ライブラリーサイエンス専攻では、文書館や図書館の現場において情報の管理・提供に携わってきた教員を配置している(大学文書館教員2名、附属図書館事務部課長1名) ((再掲) 別添資料 7333-i3-6) [4.4]
- ユーザー感性学専攻では、修士論文提出までの期間に、中間発表会を2回実施し、学際的な教授陣(心理学、芸術工学、工学、医学、農学、博物館学など)から多様な観点でのフィードバックを得る機会を設けている。中間発表会及び修士論文審査会には、修士1年生も参加し知見を広げ修士研究への取り組みを準備する機会として活用できるようにしている。[4.5]
- ライブラリーサイエンス専攻では、修士の学生に対して、修士論文着手発表会、中間発表会、口頭試問、公聴会での発表を課しており、着手発表会、中間発表会、公聴会は、教員、学生が出席する公開の場で行われる。これらの発表会を行うことにより、研究テーマの妥当性、研究手法の適切性に関して、学際的な教授陣から多様な観点でのフィードバックを得る機会を設けている。[4.5]
- オートモーティブサイエンス専攻の情報制御学分野では、修士1年の前期に将来の自動車産業や交通社会に必要とされる技術やシステムを学生自ら調査・提案する実践的な授業を行い、後期には前期で提案した技術・システムを具現化して効果を計測するという実践的な授業を行い、研究開発の理論と実務の両方を体得できる取り組みをおこなっている。[4.6]
- 各専攻のディプロマポリシーにそって成績評価を行い、授業評価アンケートや修了生アンケートでその達成度を確認している。アンケートの結果に関する Faculty Development (FD)を実施して成績の評価基準の振り返りを行なっている。((再掲) 別添資料 7333-i3-3~4) (別添資料 7333-i4-9) [4.7]

九州大学統合新領域学府 教育活動の状況

- オートモーティブ専攻では、長期インターンシップ終了後に派遣先企業の担当者と教員が学習成果や改善すべき点などを話し合う懇談会を実施している。改善すべき点は次年度のインターンシップに反映させて常に改善を行っている。
(別添資料 7333-i4-10) [4.7]

<必須記載項目5 履修指導、支援>

【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料 (別添資料 7333-i5-1)
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料 (別添資料 7333-i5-2)
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料
(別添資料 7333-i5-3)
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料
(別添資料 7333-i5-4~5)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 2017年度より統合新領域学府賞を設けて優れた成果を残した学生を表彰する制度を実施している。(別添資料 7333-i5-6) [5.1]
- 関連業界から講師を招きセミナーを実施している。ライブラリーサイエンス専攻では毎年シンポジウムを実施しており、オートモーティブサイエンス専攻では自動車会社経営陣が講義する授業で授業を担当する会社を1社増やし大手4社体制にした。(別添資料 7333-i5-7) [5.1]
- ユーザー感性学専攻では、在学生や卒業生、地域社会とのコラボレーションを含む多様な活動が展開できる場として、フローリングや家具などを工夫した協働作業がしやすい部屋(KASAルーム)を準備している。
(別添資料 7333-i5-8~9) [5.1]
- ユーザー感性学専攻では、留学生の卒業生を招聘して就学及び就職体験を語ってもらう機会を設け、在学留学生のキャリア開発を支援する機会を設けている。(別添資料 7333-i5-10) [5.3]
- ライブラリーサイエンス専攻では、年に1回開かれる教員と学生によるラウンドテーブルにおいて学生、特に留学生の就職活動を報告してもらい、後輩への情報提供を行い、キャリア開発を支援している。
(別添資料 7333-i5-11) [5.3]

<必須記載項目 6 成績評価>

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準（別添資料 7333-i6-1）
- ・ 成績評価の分布表（別添資料 7333-i6-2）
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料 7333-i6-3）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 学生対象に授業評価アンケートを行い、その結果に関するFaculty Development (FD) を実施している。そのFD中で成績の評価基準に関しても振り返りを行なっている。（別添資料 7333-i6-4）（（再掲）別添資料 7333-i3-3（項目番号4-⑩））
[6.2]

<必須記載項目 7 卒業（修了）判定>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 7333-i7-1）
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料
（別添資料 7333-i7-2）
- ・ 学位論文の審査に係る手続き及び評価の基準（別添資料 7333-i7-3）
- ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料（別添資料 7333-i7-4）
- ・ 学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料
（別添資料 7333-i7-5）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- ライブラリーサイエンス専攻では、プレゼンテーション演習において、博士後期課程1年次2年次が研究発表を各学期で行い、主指導教員・副指導教員だけでなく、原則として博士後期課程を担当している教員全員が出席し、研究指導を行っている。この際、開催記録および院生の発表資料等を活動記録として残している。プレゼンテーション演習は、研究の進捗を報告する中間発表としても位置づけている。（別添資料 7333-i7-6） [7.1]

<必須記載項目 8 学生の受入>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 7333-i8-1）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 7333-i8-2）
- ・ 指標番号 1～3（データ分析集）
- ・ 指標番号 6～7（データ分析集）※補助資料あり（別添資料 7333-i8-9）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 3 専攻ともに口頭試問を重視した入学者選抜を行なっている。口頭試問ではアドミッションポリシーに掲げた観点に基づき、問題意識や意欲、発想力、コミュニケーション能力、幅広い教養を総合的に評価する。
（別添資料 7333-i8-3～8） [8.1]
- 外国人留学生や社会人入学者に受験機会を提供するという理由から秋入学を実施している。ユーザー感性学専攻では修士課程と博士後期課程で、オートモーティブサイエンス専攻とライブラリーサイエンス専攻では博士後期課程で実施している。（（再掲）別添資料 7333-i8-3～7） [8.1]
- 社会人のためにこれまでの研究関連の実績、研究能力などを社会人特別選抜の面接試験において総合判定して選抜している。（データ分析集、指標番号 2）
（（再掲）別添資料 7333-i8-8） [8.1]
- ユーザー感性学専攻においては、ユーザー感性学専攻の複数の専任教員が、それぞれの専門性から「感性」にアプローチするトークセッションを入試説明会と同時に開催している。多様な学問領域が越境し合い、対話することから生まれ、飛躍する「感性学」の向かう先を講演することで知の統合を目指すユーザー感性学専攻に関する理解を深める機会を設けている。 [8.1]
- オートモーティブサイエンス専攻においては、九州内の高等専門学校において個別の入試説明会を行い、高等専門学校専攻科の卒業生の志願者増加に務めている。 [8.1]
- ライブラリーサイエンス専攻では、毎年専攻主催のシンポジウムや講演会を開催することで本専攻が対象としている領域を広く通知している。さらに専攻独自のウェブサイトを持ち、専攻に関するイベント等を広報している。 [8.1]
- 2016 年度～2018 年度における受験者倍率（データ分析集、指標 6）は、修士課程で 1.7 倍以上、博士後期課程では 2017 年度を除き 1.1 倍以上を確保している。 [8.2]

- 女性学生の割合（データ分析集、指標 1）は、増加傾向にあり 2018 年度の修士課程で 46.4%、博士後期課程では 26.4%を確保している。[8.2]
- 2016 年度～2018 年度における入学学定員充足率（データ分析集、指標 7）は、修士課程で 75%以上、博士後期課程では 50%以上を確保している。[8.2]

<選択記載項目 A 教育の国際性>

【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数
（（再掲）別添資料 7333-i4-5）
- ・ 指標番号 3、5（データ分析集）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- オートモーティブサイエンス専攻では、英語のみの授業で学位取得が可能なグローバルコースを設けており毎年 2 名程度が入学している。[A. 1]
- ライブラリーサイエンス専攻では、世界的な情報学の教育組織のコンソーシアムである iSchools に加盟した。iSchools は、情報化がすすむ社会において情報専門家 (informational professionals) の重要性が高まってくることを見越して、各国の関連教育組織とのネットワーク構築や連携をしながら、情報に関する研究の推進、情報専門家の育成を目指している。ライブラリーサイエンス専攻でも、この組織のメンバーとネットワークを構築し、研究交流、学生交流、情報交換等を行うことで、社会のニーズに応じた情報に関する研究や情報専門家の育成を目指している。将来的には、情報の管理と提供において日本のみならず世界をリードすることができる研究・教育組織になることを目指している。
（別添資料 7333-iA-1） [A. 1]
- ライブラリーサイエンス専攻では、2019 年度に国際インターンシップのトライアル実施を予定していた。2019 年 2 月 16 日から 21 日まで学生 10 名（修士 9 名、博士課程 1 名）を連れてソウルに行き、成均館大学校とソウル国立大学の関連学科 (iSchool) と 5 つの情報サービス機関を訪問する予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で情報サービス機関が閉館するなどの影響があり、予定していた研修内容が行えないため中止とした。（別添資料 7333-iA-2） [A. 1]

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

<必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 7333-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 7333-ii1-2）
- ・ 博士の学位授与数（課程博士のみ）（入力データ集）
（別添資料 7333-ii1-3）※法人独自資料添付
- ・ 指標番号 14、16（データ分析集）※補助資料あり（別添資料 7333-ii1-12）
- ・ 指標番号 15、17～20（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- ユーザー感性学専攻では、学生の学会発表における優秀賞の受賞が続いている。また、価値クリエーションコースの学生がグッドデザイン賞や学生デザイン展で受賞し、世界最高峰レベルのロボットバトル「RoboMaster」の世界大会に2度目の日本代表として出場している。（別添資料 7333-ii1-4～7） [1.2]
- オートモーティブサイエンス専攻では、情報制御学分野および先端材料科学分野の学生が国際学会で発表しベストポスター賞等を受賞している。
（別添資料 7333-ii1-8） [1.2]
- オートモーティブサイエンス専攻では、自動車計測制御実習において「九州大学出口付近で発生する交差点の渋滞解消」に取り組み、画像認識技術を用いた新しい交通量調査手法を開発した。調査結果に基づいた交通渋滞モデリングと解消シミュレーション結果を電気学会制御研究会で発表した。さらに、福岡県警察との連携で渋滞解消の実証実験に取り組み、信号現示サイクルの調整により渋滞解消に成功し、本学の教職員および学生の利便性や安全性を高めたとして九州大学学生表彰を受けている。（別添資料 7333-ii1-9～11） [1.2]

<必須記載項目2 就職、進学>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学府は高い進学就職率を維持している
（修士課程 80%以上、博士課程（後期）：70%以上）。 [2.1]
- 幅広い産業分野に就職し、開発技術者や研究者を中心に多様な職業に就いている。 [2.1]

<選択記載項目A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料
((再掲) 別添資料 7333-i3-4)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 全ての項目で肯定的な意見が多い。[A. 1]
- 本学府の教育目的に掲げている「知の統合を通して、社会において将来役に立つと思う知識を獲得できた」や「討論する能力が向上した」への回答では、肯定的な回答が90%以上と非常に高い結果が得ている。
((再掲) 別添資料 7333-i3-4) [A. 1]

<選択記載項目B 卒業（修了）生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料
((再掲) 別添資料 7333-i3-14 p. 23 と p. 24)
((再掲) 別添資料 7333-i3-15 p. 23 と p. 24)
(別添資料 7333-iiB-1 p10 と p11)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- ライブラリーサイエンス専攻では年報の中の「修了生紹介」コーナーで、修了生に現在の仕事や学生時代の振り返りをしてもらった記事を掲載している。
((再掲) 別添資料 7333-i3-14 p. 23 と p. 24)
((再掲) 別添資料 7333-i3-15 p. 30 と p. 31)) [B. 1]
- ユーザー感性学専攻では、専攻パンフレットに「修了生に聞く」コーナーを設け、専攻での学びが現在の仕事にどのように活かされているかなどを紹介している。((再掲) 別添資料 7333-iiB-1 p10 と p11) [B. 1]

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数(常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路データ	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 部分の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。

※ 部分の指標（指標11）については、研究活動の状況に関する指標として活用するため、学部・研究科等ごとの現況調査票（教育）の指標には活用しません。